

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。  
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。  
謹白

### 記

■ 受託開始日 2022年10月13日（木）ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

| 項目コード<br>(迅速細菌)    | 検査項目<br>JLAC10                              | 検査材料 | 容器 | 保存 | 検査方法 | 実施料<br>判断料 | 所要<br>日数 | 備考  |
|--------------------|---|------|----|----|------|------------|----------|---|
| 50386A1<br>(1746N) | POT法<br>(黄色ブドウ球菌)<br><br>6B631-0000-080-856 | 菌株   | -  | 室温 | POT法 |            | 14~21    | 純培養された黄色<br>ブドウ球菌および<br>MRSAをご提出く<br>ださい。<br><br>&1 |

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

| 項目コード<br>(迅速細菌)    | 項目名             | 最終受託日               |
|--------------------|-----------------|---------------------|
| 50106A1<br>(5255N) | パルスフィールド (MRSA) | 2023年3月31日（金）ご依頼分まで |



## ● POT法（黄色ブドウ球菌）

MRSAの感染源の特定や感染経路のするために有用な検査です。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus*）は、医療現場で最も多く検出される薬剤耐性菌です。メチシリンを含むβ-ラクタム系抗菌薬の薬剤耐性化に加え、多くは他の種類の抗菌薬にも耐性化していることが知られています。また、ヒトの皮膚に保菌していることが多く、現在でも院内感染原因菌として脅威となっています。

海外では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大がピークに達した後に、MRSAを含む薬剤耐性菌の院内感染例が有意に増加したことが明らかになっています。COVID-19のパンデミックによって、薬剤耐性菌の感染対策や抗菌薬の適正使用が難しい状況であったことが、薬剤耐性菌の増加の要因とされています。

また、MRSAの感染対策として接触感染予防策が基本となりますが、感染源の特定や感染経路の究明には、同一菌株の伝搬を分離菌株の遺伝子型から解析する分子疫学的解析の実施が有効です。従来からパルスフィールドゲル電気泳動（PFGE）法が用いられておりますが、処理時間が長く手技が煩雑なことから、集団感染時に簡便な方法が求められておりました。

本検査は、再現性が高く短時間で測定可能なPOT法による、MRSAを含む黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析です。PFGE法では報告できない泳動バンドの有無を元にした数値（POT型）により、簡便に菌株・施設間のデータ解析が可能となります。MRSAの院内伝搬を防止するための検査としてご活用ください。

### ▼疾患との関連

MRSA感染症、院内感染

### ▼関連する主な検査項目

培養同定、MRSA（目的菌）、MRSAスクリーニング

### ▼検査要項

|                 |   |
|-----------------|---|
| 検査項目名           | POT法（黄色ブドウ球菌）   |
| 項目コード<br>（迅速細菌） | 50386A1<br>(1746N)                                    |
| 検査材料            | 菌株  |
| 容器              |   |
| 保存方法            | 室温保存してください  |
| 所要日数            | 14~21日  |
| 検査方法            | POT法  |
| 報告内容            | 鮮明な泳動写真をご報告するとともに、POT型からご依頼いただきました菌の関連性について判定し、報告します。 |
| 検査実施料           |   |
| 判断料             |   |
| 備考              | 純培養された黄色ブドウ球菌およびMRSAをご提出ください。<br>&1                   |

### ●参考文献

鈴木 匡弘：THE CHEMICAL TIMES 221（3）：16~21，2011。（検査方法参考文献）  
森山 英彦 他：感染症学雑誌 86（2）：115~120，2012。（臨床的意義参考文献）